

教職教育部の24年間を振り返って

—平成7年から数年間を中心に—

堀（山口） 緑*

はじめに

わたしが近畿大学教職教育部に着任したのは平成7（1995）年4月。早いもので丸24年が経ち、今年は25年目となる。教職教育部に着任するまでは、近畿大学を含むいくつかの大学の非常勤講師として、主に一般教養の英語を担当していた。平成6年4月から1年間、非常勤講師として教職教育部の英語科目を担当していたものの、教職課程の仕組みについてはまったくとっていいほど知識がなく、着任後しばらくは履修要項の内容や教職課程について理解するのに必死だった記憶がある。当時、教職教育部は本館6階にあり、わたしの研究室は東側だった。その後平成15（2003）年に教職教育部は11号館へ移転し、11号館で15年以上を過ごしたが、一昨年また本館（現在は旧本館）6階に戻ってくることになった。今回は西側の研究室という違いこそあれ、6階の雰囲気は24年前とほとんど変わっておらず、着任当初が懐かしく思い出される。

だが、この24年間のあいだに、教職教育部の授業運営や教職課程のカリキュラムなどには大きな変化があった。振り返ると時代の変化を否応なく感じさせられる。このような変化は特に記録に残るわけでもなく、当時を知る人間がいなくなればやがて忘れ去られてしまうのかもしれない。だが、これもまた教職教育部の歴史の一部である。今回、この教職教育部創立30周年記念号という機会を得て、着任当初の数年間を中心に、教職教育部での24年間をわたしなりに振り返っておきたいと思う。もちろん、手元の資料は限られているうえ、見落としなどもあるだろう。わたしの記憶している範囲、資料が残っている範囲のことしか書けないが、そこはご容赦いただきたい。

では、まず、着任当初の数年間（平成7年～平成9年ごろ）の状況を、わたしの記憶と、当時の履修要項・講義要綱・会議資料や委員会資料をもとに少し詳しく述べてみたい。平成10年以降は、履修要項・講義要綱の主な変更点と教職教育部での主要な出来事を一覧表とし、おおまかな流れをたどることとする。

* 近畿大学教職教育部教授

〔キーワード〕 教職教育部、歴史、教職課程、履修要項、変遷

1. 平成7年～平成9年を中心に

(1) 教員組織など

平成7年度当初の教職教育部教員は15名で、女性教員はわたしひとりだった。わたしは教職教育部はじめての女性教員だと聞いてやや緊張しながら着任したが、着任してみると仕事を覚えるのに必死でそんなことは気にする余裕もなかった。ほかの先生方も温かく迎えてくださったと思う。

当時の会議資料によると、部内担当は「教務（時間割・履修要項）」「編集」「図書」「視聴覚・機器備品」「慶弔」「教育実習」「阪神教協」「人権常任委員」「学内検討委員」「語学センター運営委員」「庶務（予算）」の11委員会に分かれており、わたしは「教務」と「人権常任委員」に配属されることになった。

当時の会議資料を見返してみると、B5判、A4判など、用紙のサイズがバラバラである。当時はまだワープロが主流だったからかもしれない。教職教育部でも、新任教員にはワープロが一台用意されることになっていた。もちろん、まだ教員用のメールアドレスも、インターネット接続もない時代だった。

(2) 履修要項・講義要綱

わたしの手元に残っている一番古い教職教育部の資料は、平成6年度講義要綱である（図1）。1年間、教職教育部の非常勤講師をしていたときのものだ。平成6年の講義要綱は現在よりも一回り小さく、B5判だったが、平成7年度にはA4判になった。



（図1）左が平成6年度講義要綱

一方、履修要項のほうは平成7年度もB5判である(図2)。現在の履修要項・講義要綱は東大阪キャンパス用と農学部用の2冊に分かれているが、平成7年度当時は全学部が1冊にまとまっていた(短期大学部の教職課程履修要項は短期大学部の履修要項に収録されているため、本稿では扱わない)。実は、農学部の履修要項、講義要綱が分冊になったのはかなり後のことで、平成17年度からである。平成7年度履修要項は全73ページと、現在の履修要項(平成30年度履修要項は、東大阪キャンパス用のみでA4判101ページ)よりもコンパクトだが、その理由のひとつは学部数の違いだろう。平成7年度教職課程履修要項に記載されている学部は法学部、商経学部、理工学部、薬学部、農学部、文芸学部の6学部であった。平成30年度は、法学部、経済学部、経営学部、理工学部、薬学部、農学部(別冊)、文芸学部、総合社会学部、国際学部の9学部である。学部数の増加だけを取っても、この24年間の変化がうかがえる。



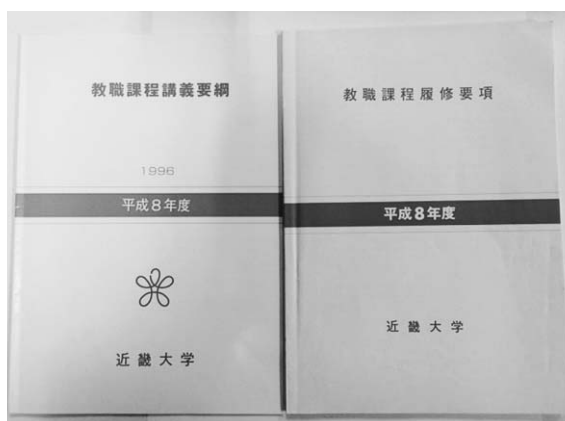
(図2) 平成7年度履修要項はB5判。

平成8年度以降、履修要項もA4判となった。平成8年度は、履修要項が2種類存在する(図3)。右側はオレンジ色で色が違い、平成8年度入学者用、と書かれている。履修要項の表紙に「○年度入学生用」と書かれたのはこれがはじめてだったと思う。後述するが、平成8年から1年生で教職課程が履修開始できるようになったため、新入生向けと、2年生から新規に履修をはじめる在学生向けの2種類を作成したのだと思われる。平成9年度からは履修要項と講義要綱は同じ大きさ、同じ色になり、表紙も似ているため紛らわしかった(図4)。

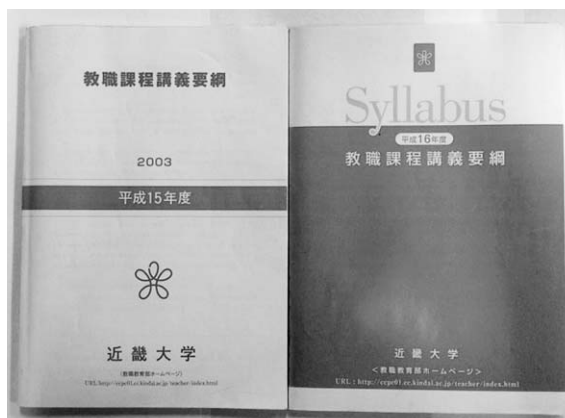
そのため、後になって(平成16年)区別しやすくするために、講義要綱の表紙デザインを変えることになった(図5)。



（図3）2種類の履修要項。左は緑色、右はオレンジ色。



（図4）表紙がとてもよく似ていた。



（図5）平成15年度講義要綱と平成16年度講義要綱

教職教育部の24年間を振り返って—平成7年から数年間を中心に—

平成7年度からA4判になった講義要綱だが、総ページ数が20ページと、最近のシラバスを見慣れた目にはとても薄く感じる。ちなみに冊子体の履修要綱（平成24年からは「授業計画」に名称変更）が配布されていたのは平成26年までだと思うが、そのときのページ数は東大阪キャンパス向けで145ページだった。平成8年度の講義要綱依頼用紙が残っている（図6）。

（図6）平成8年度の講義要綱依頼用紙

原稿は300字以内で、と指定されており、このころの講義要綱というのはいまとは違い、ごく簡単な授業の紹介だったのがわかる。一例として、平成7年度講義要綱のわたしの担当科目の部分を紹介しておく（図7）。

（図7）平成7年度の講義要綱

（3）履修開始時期について

前述したように、1年次から教職課程が履修できるようになったのは平成8年からで、わたしが着任した平成7年当時、履修開始は2年生からだった。平成7年度履修要項1ページには次のように記載されている。

3. 履修のための手続き

(1)教職課程の諸科目の履修は第2学年次から始まります。したがって第1学年次では履修できません。

(2)履修希望学生は前年度末（1月中旬ごろ）行われる「教職課程ガイダンス」に出席し予備登録を行なうこと。

上記の手続きを済ませた学生は、次年度始め（4月）実施の教職教育部科目履修登録を行うこと。

（中略）

(5)3年間で履修するのを原則とします。無理をすれば2年間で教職に必要な単位を取得できる可能性もありますが、2年間で取得するのは大変困難と思われるので、できるだけ2，3，4年の3年間で取得するのが望ましい。ただし、第4学年からの履修は不可能です。

ただし、平成7年当時はちょうど1年次からの履修開始が検討されている時期で、わたしは着任後はじめての平成7年4月の全体会議（当時は部会と呼んでいたと思う）で1年生からの受講が提案されたとのメモを残している。また、平成7年7月の会議資料「1年生からの教職課程履修について（教務案）」を見ると、平成8年度から実施予定とすること、1年生から履修できる科目は教職専門科目の一部に加え、「日本国憲法」などに限ることなどが検討されていたのがわかる。さらに、1年生からの履修を可能にするのと同時に、教育実習を3年、4年のいずれの学年でも行けるようにする案も出されていた。

1年生からの履修開始は予定通り平成8年度から導入され、この年から「教育学概論」「教育哲学」「教育史」「発達心理学」「学習心理学」「青年心理学」「教育社会学」「教育行政学」「学習指導の心理学」「教育臨床心理学」「教育方法学」「教育情報工学」「特別活動論」「生徒指導論」の14科目が1年生で履修できることになった。

(4) 履修者数

平成7年度の履修者数を示す資料は手元に残っていないが、平成13（2001）年の会議資料に、「過去5年間 履修登録集計表及び教育実習履修者数」という資料がある。それによると、平成8年度の履修登録者数は全学年合わせると1,747名、平成9年度は1,581名であった。その後

名、短大・聴講生4名の450名である。同じく会議資料の「平成8年度教育実習について」によると、法学部36名、商経学部88名、理工学部90名、文芸学部74名、農学部79名、薬学部1名、聴講生4名の計372名だった。当時の教育実習は中・高ともに2週間である。

(7) 時間割

当時、教職課程の授業は主として4限～7限（特に5限～7限）に行われていた。平成8年10月9日付けの教務委員会資料によると、当時の5限は16：30～18：00、6限が18：10～19：40、7限が19：50～21：20である。平成6年にはじめて非常勤講師として教職課程の授業を担当したときには、7限終了は21：40だった記憶があり、1年目か2年目あたりで終了が20分早くなったのだと思うが、いつ時間帯が変わったのかについては残念ながら資料も記憶も残っていない。平成7、8、9年の時間割も残っていないが、平成10年度の時間割を見ると、教職課程の授業が主に5限から7限の時間帯に行われていたのがよくわかる（図10）。

（図10）平成10年度時間割表

平成10年度のわたしの時間割は、月曜6・7限、火曜5限・6限、金曜5限・6限の通年6コマだった。当時、専任教員の持ちゴマ数は担当教科によって違っていたと思うが、通年で5コマか6コマだったと記憶している。

(8) 近畿大学学年暦と教職課程日程予定

平成9年度の大学の学年暦と教職課程日程予定が残っている（図11）。

教職教育部の24年間を振り返って—平成7年から数年間を中心に—

平成9年度 近畿大学学年暦	
4月1日(火)	年度始め
4月7日(月)	入学式
4月8日(火)・9日(水)	オリエンテーション
4月10日(木)	前期授業開始
4月30日(水)～5月2日(金)	臨時休講
7月19日(土)	前期授業終了
7月21日(月)～9月20日(土)	夏期休暇
9月22日(月)	後期授業開始
11月上旬	大学祭
11月5日(水)	創立記念日
12月20日(土)	授業終了
12月21日(日)～1月9日(金)	冬期休暇
1月10日(土)	授業再開
3月19日(木)	卒業式
3月31日(火)	年度終了

平成9年度 近畿大学教職課程日程予定	
4月 7日 (月)	入学式
9日 (水)	教職課程履修ガイダンス(短期大学部)
10日(木)	教職課程履修ガイダンス(法、理工、薬)
11日(金)	教職課程履修ガイダンス(商経、2・3年生全学部)
12日(土)	教職課程履修ガイダンス(文芸、農)、体育履修説明会
14日(月)	教職課程前期授業開始
	教育実習直前ガイダンス(法、商経、理工、薬、文芸、短期大学部)
17日(木)	教育実習申込及び実習費用受付(法、商経、理工、薬、文芸、短期大学部)
18日(金)	～
19日(土)	教育実習直前ガイダンス(農)
21日(月)	教育実習申込及び実習費用受付(農)
22日(火)	～
24日(木)	教職課程履修登録及び受講料受付(全学部)
25日(金)	～
30日(水)	臨時休講
5月 2日(金)	～
5月 中旬	教育実習依頼書及び実習費用発送
5月 下旬	履修登録確認書配布、受講者名簿配布
6月 中旬	教育実習ガイダンス(3年生対象)
7月 中旬	教職課程前期試験
	※ 平常時間等で各自実施して下さい。実施日程および成績報告書などについては、別途お知らせします。
7月19日(土)	前期授業終了
7月21日(月)	夏期休暇
9月20日(土)	～
9月22日(月)	後期授業開始
11月上旬	大学祭
11月5日(水)	創立記念日
12月20日(土)	授業終了

(図11) 上は平成9年度近畿大学学年暦、下は教職課程日程予定

学年暦によると、4月7日が入学式、8、9日がオリエンテーション、10日に前期授業開始、7月19日に前期授業終了である。教職課程日程予定を見ると、4月9日～12日が教職課程履修ガイダンス、14日が教職課程前期授業開始である。当時は、各学部のオリエンテーション期間が終わり、学部の授業がはじまってから教職課程の履修ガイダンスを実施していた。当然のことながら、授業回数は現在より少なく、半期の授業は12回程度だったと思う。いまから思うと、ずいぶんのんびりした時代だった。

こうして平成7年～9年ごろを振り返ってみると、20年以上前のこととはいえ、教職課程の履修が2年次からだったり、3年生での教育実習が一時期認められていたり、4限～7限の授業時間だったり、現在との違いに改めて驚かされる。授業時間が遅かったのは、1部・2部両方の学生が履修できる時間帯に授業を行う必要があったからだと思われるが、その後、大学全体が昼夜開講制に移行するとともに、教職教育部の授業時間帯も現在のように1限から6限までを使うようになった。


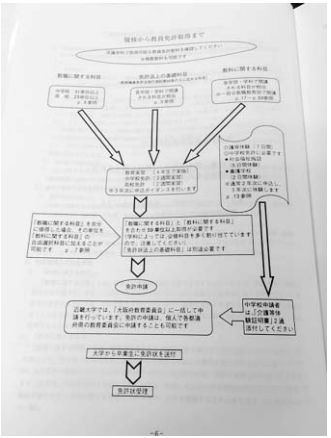
2. 平成10年～現在

平成10年度以降は、主な変更点を履修要項・講義要綱から拾い出していきたい。【 】内にゴシック体で記載した項目は、履修要項・講義要綱の内容ではないが、教職教育部に関連する活動や出来事などである。この表は履修要項・講義要綱に基づくので、4月～3月の年度ごとに区切って記載していく。

平成10（1998）年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成10年度入学生から介護等体験が義務づけられる。この年度の履修要項にはまだ「介護等体験について」という独立した項目はなく、「教職課程受講料について」の項目のひとつとして介護等体験の費用のことが、また「履修上の留意事項」の最後に、中学校免許状取得のために介護等体験が義務づけられていることがつけ加えられているのみである。
平成11（1999）年度	<ul style="list-style-type: none"> 教職教育部10周年を迎え、『教育論叢』10周年記念号を刊行。
平成12（2000）年度	<ul style="list-style-type: none"> 教育職員免許法の改正にともない、「教師論」や「教育課程・方法論Ⅰ・Ⅱ」「教育総合演習」など新しい授業が設けられる。「教職に関する科目」の修得必要単位数は、中学校免許状の場合32単位以上、高等学校免許状のみの場合は26単位以上となった。（前

	<p>年度までの修得必要単位数は、中学校免許状の場合24単位、高等学校免許状で22単位だった。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習が中学校免許状取得のためには4単位、高等学校免許状取得のみの場合は2単位となった。平成12年度履修要項から、教育実習は4年生で行うことになった。 ・『「介護等体験」について』のページが履修要項に設けられる。 ・セメスター制への切り替えで、講義要綱は「新課程用」「旧課程用」の2種類が作られた。これは平成12年度～平成14年度まで続いた。 <p>【採用試験対策が行われる。10月「第1回教採模試（3年生対象）」、12月「第2回教採模試（3年生対象）」、3月「教員採用試験講座（3年生対象）」実施。以後採用試験対策が毎年行われるようになる。】</p>
平成13（2001）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・履修要項の表紙に「平成13年度入学生用」と、「入学生用」という文言がはいる。平成8年度には「新入生用」が作られたが、それを除くと平成12年度版までは「平成12年度」と書かれているのみだった。 ・「教育総合演習履修ガイダンス」が行事予定表にはいる。この年、「教育総合演習」（2～4年生対象）の授業がはじまり、受講希望者を集めてクラス分けのガイダンスを行ったが、比較的うまく分散することがわかり、以後は行われなかったと記憶している。 <p>【5月「教員採用試験小論文対策Eメール講座」をはじめて実施。当時のEメール講座は、現在のように2、3名ずつを担当するのではなく、各週の担当者が提出された小論文すべてをEメールで講評し、それを受講者や担当教員全員が読み合う形を取っていた。講評する数が多く、担当の週は大変だったが、新しいことをはじめようとする熱気のようなものがあり、わたしは楽しかった。】</p> <p>【3月 近畿大学教職教育部編『教員採用試験のための小論文—合格へのEメール講座—』（大阪教育図書）出版。平成13年5月に実施した「教員採用試験小論文対策Eメール講座」がほとんどそのまま本になった（図12）。】</p> <div data-bbox="669 1323 957 1704" data-label="Image"> </div>

（図12）

平成14（2002）年度	
平成15（2003）年度	<p>・講義要綱の記載内容が変わり、現在のように15回の講義計画を書く形になる（図13）。</p>  <p>（図13）</p> <p>【商経学部が経済学部と経営学部にも。】 【教職教育部、本館6階から11号館に移転。】</p>
平成16（2004）年度	<p>・「履修から教員免許取得まで」のページが履修要項に設けられる（図14）。</p>  <p>（図14）はじめてチャート図がは いった。</p>
平成17（2005）年度	<p>・「教科又は教職に関する科目」として「ケアリング論」が設けられる。このときは、まだ「中学校免許取得希望者はできるかぎり履修すること」という位置づけだった。</p> <p>・「小学校教諭免許取得支援プログラム」が履修要項に記載される。</p> <p>・農学部の履修要項、講義要綱が分冊になる。</p>
平成18（2006）年度	<p>・「英語免許取得のための必要要件」を新設 【平成19年1月、文科省の実地視察。緊張の日だった。】</p>

<p>平成19（2007）年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「近畿大学における教員養成の理念と目的」のページが追加され、目次の項目が現在とほぼ同じ順序となる。 ・『「教科に関する科目」の表の見方」のページが追加される（図15）。 <div data-bbox="480 388 805 819" data-label="Image"> </div> <p>（図15）表の見方の説明がはいった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職教育部開講の授業がすべて半期科目となる。 ・「教職入門」、「教育の思想と歴史A」「教育の思想と歴史B」「教育相談」などいくつかの授業が新設される。 <p>【文科省「教員養成改革モデル事業」。担当学部ごとにチームに分かれ、夏休みには学部の先生方とともに各地の大学へ聞き取り調査に出かけた。】</p>
<p>平成20（2008）年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員免許更新制について」のページが追加される。
<p>平成21（2009）年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員養成モデル事業」の結果を反映させた「科目の履修順序と履修条件について」のページが履修要項に追加される（図16）。 現行の履修順序と履修条件はこの年の入学生から実施された。 <div data-bbox="480 1271 805 1700" data-label="Image"> </div> <p>（図16）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「ケアリング論」が中学校免許取得のための必修科目となる。 ・「スクールインターシップおよびスクールボランティアについて」のページが履修要項に追加される。 ・各学部の「目指す教師像」が履修要項に記載される。 【教員免許状更新講習をはじめて実施。】
平成22（2010）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度入学生から「総合演習」に代わって「教職実践演習（中・高）」が必修となる。 ・履修要項に「WEB 履修登録」についての説明がはじめて登場。 【総合社会学部開設】
平成23（2011）年度	【教員免許状更新講習を本格実施。平成22年度は実施しなかったが、以後毎年実施。】
平成24（2012）年度	
平成25（2013）年度	
平成26（2014）年度	
平成27（2015）年度	【連合教職大学院開設】
平成28（2016）年度	【国際学部開設】
平成29（2017）年度	【教職教育部、11号館 5 階から旧本館 6 階に仮移転。平成31年度に再移転の予定。】
平成30（2018）年度	【再課程認定】
平成31（令和元） （2019）年度	<ul style="list-style-type: none"> ・免許法の改正に伴い、履修要項の科目区分などが変更される。 【教職教育部開設30周年】

このように見てくると、授業科目の変更や新たな項目の追加とは別に、履修要項をよりわかりやすいものにしようと、図解や表の見方のページを追加するなどの様々な工夫が加えられてきたことがわかる。平成21年ごろにはいまの形に近づき、それからはほぼ現状維持となった。今回の再課程認定で、平成31年度履修要項からはまた科目区分などが新しくなったが、図解のページなどはそのまま使われている。

平成31（令和元）年度、教職教育部は30周年を迎えるとともに、18号館に移転する予定である。近畿大学のシンボルのひとつである西門の上に新たな居場所を得て、教職教育部はこれからどのように変化していくことになるのだろうか。30周年を迎えた教職教育部の、新たなスタートを見守ることができるのをうれしく思う。